



徳永 英太郎

さいがいじ 災害時

町長 / 業務継続計画を策定

行政機能を維持するための対策は

問 東日本大震災から2年半となる。行政はどのような状況下にあつても、町民の生命や財産、生活を守る使命がある。教訓を風化させないためにも、大地

震をはじめとする大きな災害の発生時、町の業務を継続し、行政機能を維持するための対策をどのように考えているか。



役場の防災無線室
～いざという時の防災の要～

答 町長 大規模災害時には、行政自体も被災し、人員や物資、ライフライン等も制約を受ける。通常の業務を行うことは困難となりさらに、応急対応する業務が膨大となる。

自治体は非常時優先業務をあらかじめ選定し、迅速かつ的確に応急対策を行っていくため、業務継続計画の策定が必要だ。本町では県版業務継続計画を基に、基本計画部分について昨年度策定し、実施計画の策定に向けて作業を進めている。

本町が行う応急対策等の詳細な実施手順等を定めるとともに、住民生活に密接に関係する通常業務、継続早期復旧させるための手順等について定める。

スポーツ

幼児期からの推進について

教育長 / 部活とともにスポねつとを活用



未来のオリンピック選手？

問 体力づくりの一環としてスポーツに親しむことは、幼児期からのふれあいが大切だ。「スポねつとちづ」の教育的な位置づけも必要では。

答 教育長 学校における部活が減る中、豊かな心、健やかな体を育む上で「スポねつとちづ」の持つ役割は大きいと考える。教育的な位置づけについては、今後の検討課題だ。

問 本町教育の大きな指針である「智頭町教育ビジョン」の策定の背景の中で体力の低下傾向を挙げている。現状認識を問う。

答 教育長 小学校の児童はボール投げとか柔軟性にやや課題がある。体育の学習とあわせていろいろなスポーツに触れるように努め